



▲第50回全日本高等学校馬術競技大会優勝旗



▲遠藤元輝君(インターハイ競技風景)

諦めず信じ感謝する。  
馬術競技部顧問は藤田さとみ先生。同校出身で部のOGです。十一名の部員をしつかりと指導し見守ってきました。藤田先生が考えるインターハイの勝因は「諦めなかったこと」。優勝を掴むには、切磋琢磨できる環境とセンスが必要で、壁を乗り越えるためには強靱な精神力も必要となってきます。  
「私は旗を振る役目。それによくついて来てくれて。最後は彼らに教えられました。彼らは『信じる』ことができず」と話します。生徒たちが日々素直に自分を信じ、相手を信じ、目標を失わないことが強さに繋がっているのですよ。



▲顧問/藤田さとみ先生

地元の協力も力になりました。鏡石町はじめ、岩瀬牧場や天栄村のノーザンファーム天栄などが協力。類い稀な良い環境を当たり前と思わず、練習する中で感謝する気持ちも養ってきたそうです。卒業する三年生には「しっかりと生きていてほしい。どんな人間になりたいのか、どんな事を達成したいのか。自分の中の本物は一つ。集中すれば見えて来るものもあります」とエール。  
優勝の二文字に向けて疾走し、トップに立ったことで見えてきた壁と重責。「ひたすら山を駆け上がって、山を下ることは考えていませんでした。結果に対する責任に気付かされています」。連覇に向けて、新たなステージの始まりです。



▲高橋宇宙君(インターハイ競技風景)

## 馬術競技部の皆さん



高橋 宇宙君(3年生) 遠藤 元輝君(3年生)  
濱尾 直斗君(2年生) 齊藤 山君(3年生)

会場に響いた校歌。  
三年生の齋藤山(さいとうさん)君と遠藤元輝君は高校に入り、初めて馬術に出会いました。齋藤君は「自分に足りないところを先生方に指導していただき、目標を達成できた」、遠藤君は「目標を持って諦めないことが結果に繋がった」と三年間を振り返ります。  
インターハイで主将を務めた高橋宇宙君は「どこまで馬の気持ちに寄り添えるか。人と馬とが一体にならないと決まらない競技であることが魅力です」と話します。  
二年生が目指すのは前人未到の二連覇。濱尾直斗(はまお・なおと)君は「目標は二連覇」とキッパリ。  
優勝したら競技会場で校歌を歌うことを提案した藤田先生。その瞬間を描きながら、練習後は全員で校歌を歌ってきました。そして挿んだ全国大会優勝。競技会場に響いた岩瀬農業高校の校歌。今までの歴史になかったこ



福島県立岩瀬農業高等学校 馬術競技部  
〒969-0401 福島県岩瀬郡鏡石町桜町207  
TEL.0248-62-3145 FAX.0248-92-2051

顧問 藤田さとみ・樋口佳菜・渡邊貴洋・小澤紀夫



とですが、これにより、今後は優勝校が歌うことが提案されたそうです。  
インターハイの歴史に新たな伝統を築きました。そして今日も、彼らの声が練習場に響きます。  
「遠き世々より歌われし阿武隈川の水長し・・・高き理想に進みなん」。今年のインターハイで再び岩瀬農業高校の校歌を歌うことを描きながら。



柴田 祐紀君(インターハイ競技風景)

今大会の結果により、「平成28年度全日本高等学校馬術競技海外研修」の日本代表選手に選抜(取材時はオーストラリア研修に参加)



部室の前で



▲念願のインターハイ優勝旗とカップを手

# 頂点を極めたアスリートたち。 岩農馬術競技部の「信じる力」。

朝の冷え込んだ空気の中で、黙々と練習する生徒たち。木立に囲まれた馬場の中は、心地よい緊張感に包まれていました。岩瀬農業高校馬術競技部は平成二十八年七月、第五十回全日本高等学校馬術競技大会(インターハイ)で優勝。全国九十五校の頂点に立ちました。第二十五回福島大会以来、実に二十五年ぶりの快挙です。勝利の立役者となったのは、高橋宇宙(たかはし)君(三年)、遠藤元輝(えんどう)君(三年)、柴田祐紀(しばた)君(二年)の三人。周囲の期待を背負い、プレッシャーの中で打ち勝った彼らの強さ。メダルの明暗を分けるのは精神力とも言われます。その強さがどこから来るのか、インタビューしました。